

神奈川県  
SDGs社会的インパクト評価実証事業

業務報告（要約）

2019年3月22日  
ケイスリー株式会社

1. 本事業の背景と目的
2. 本事業の将来像
3. 「SDGs×評価×金融」エコシステム形成に必要な要素
4. 本事業の成果
  - 4-1. 「SDGsインパクト評価実践ガイド」策定プロセス
  - 4-2. 5つの実証事業の実施
  - 4-3. 「SDGsインパクト評価実践ガイド」の概要
  - 4-4. 人材ネットワークの形成
5. 来年度以降の検討課題

## 背景

- 2015年9月、2030年までに達成をめざす世界共通の目標として、SDGs (Sustainable Development Goals : 持続可能な開発目標)が国連で採択された。しかし、その達成に必要な資金は公的資金だけでは不十分で、民間資金の呼び込みが不可欠とされている。
- 一方、近年はインパクト投資やESG投資など、財務リターンだけではなく、非財務情報に着目した資金の流れが増加しつつある。しかし、そうした資金が、効率的かつ効果的にSDGs達成に向けた事業や活動に向けられる仕組みはまだ整っていない。

## 目的

- そこで神奈川県は、本「SDGsモデル事業」において、SDGsの観点を組み込んだ社会的インパクト評価（「SDGs×評価」）を普及させることで、SDGsへの貢献の見える化と、それに基づく事業者の事業改善や組織価値向上を促し、さらに、新たな民間資金の流れとつなげることで（「評価×金融」）、SDGs達成への貢献を加速させる仕組みづくりをめざしている。

社会的インパクト評価とは、「社会的インパクトを、定量的・定性的に把握し、価値判断を加えること」と定義される（内閣府）。近年では、こうした価値判断を基に、事業改善、組織強化に活用していくという定義（インパクト・マネジメントの概念）が加わりつつある。

- 「SDGs×評価」により、事業者の事業改善や価値創造を促進し、新たな資金循環「SDGs×評価×金融」につなげることをめざす。

SDGs  
×評価

## 「SDGs×評価」により、事業改善や組織価値の向上を促進する

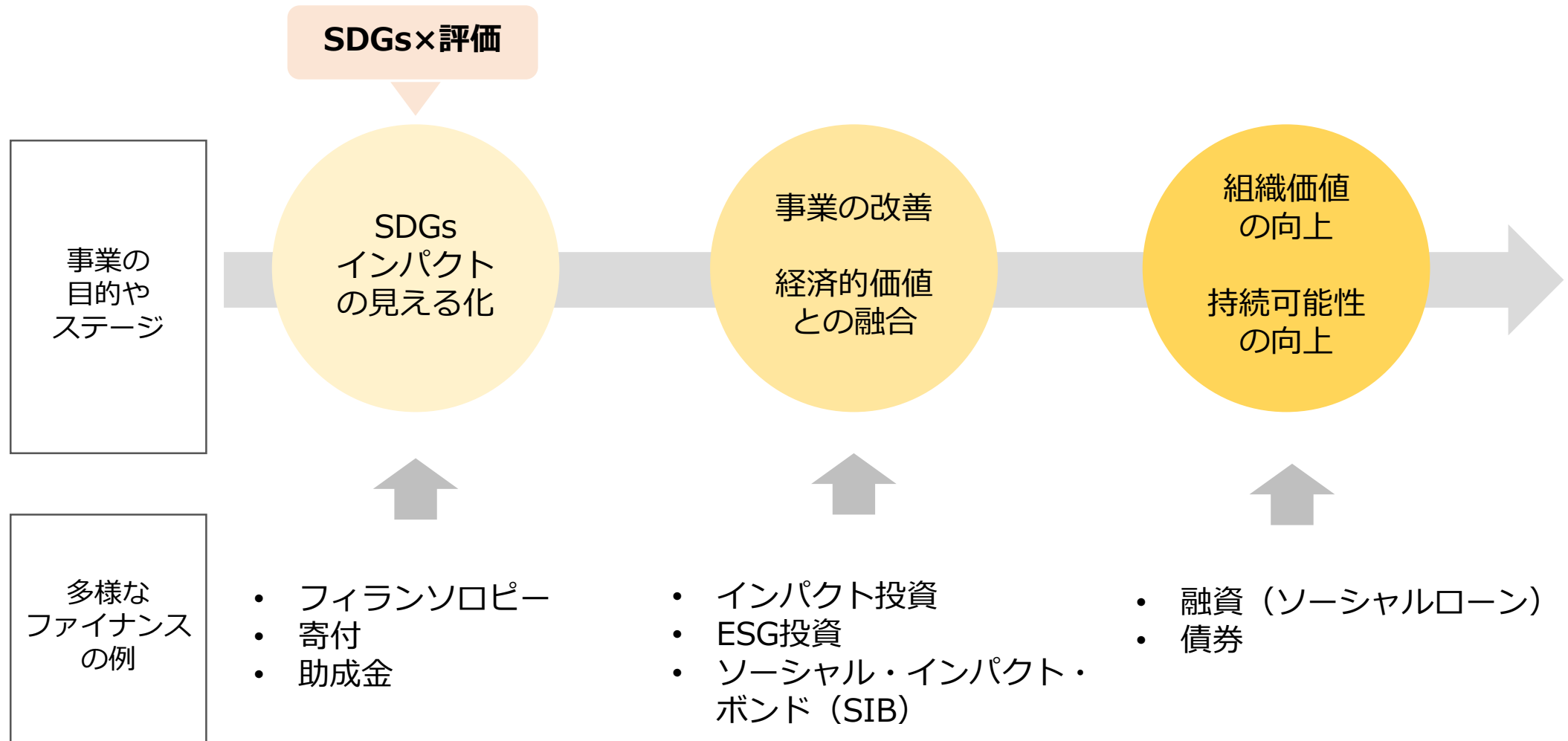
- 「SDGs×評価」により、活動→アウトプット→アウトカム→事業目標という評価から、事業目標→アウトカム→アウトプット→活動というバックキャストिंगによる評価にシフトを促し、事業の改善や変革、組織価値の向上につなげることが可能となる。
- 「SDGs×評価」により、一部のポジティブな成果だけでなく、経済・社会・環境の三側面から包括的に事業の影響（ポジティブ・ネガティブの双方を含む）を捉え、事業の改善や変革、組織価値の向上につなげることが可能となる。

SDGs  
×評価  
×金融

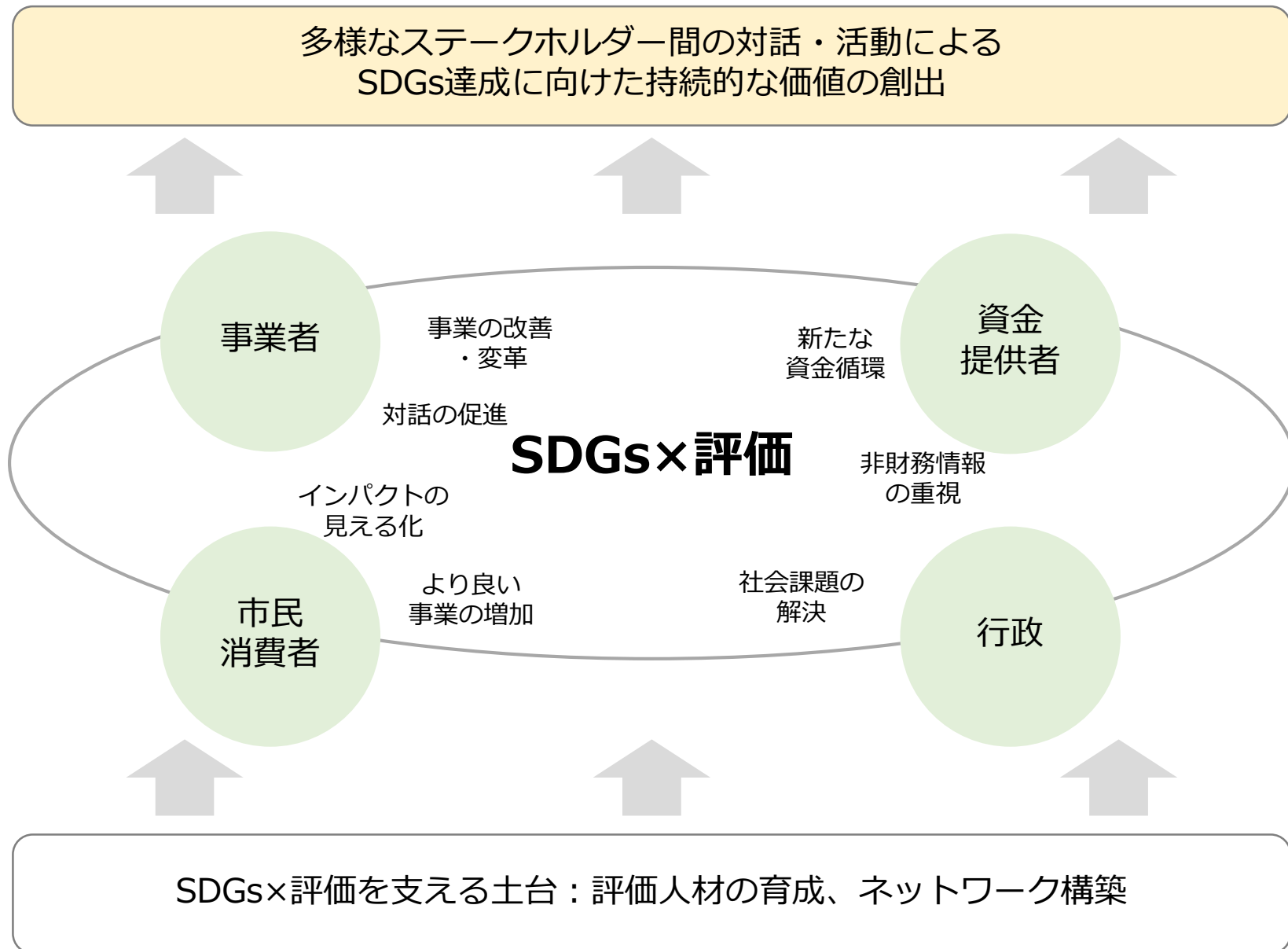
## 「SDGs×評価」を介して、新たな資金循環を加速させる

- 「SDGs×評価」を通じた事業価値の「見える化」や、事業改善・変革、組織価値の向上などにより、さらなる事業の成長や価値向上に向けた資金提供者との対話が促進され、新たな資金循環が生まれる。
- 「SDGs×評価」を軸に、多様な事業者と資金提供者との対話が生まれることにより、事業の目的・内容・ステージに合った適切な資金とのマッチングが促進される。

- 「SDGs×評価」を介して、事業の性質や目的、ステージに合わせた適切なファイナンスとのマッチングを促進し、事業の持続性や成長を後押しすることをめざす。



- 「SDGs×評価」を軸として、事業者・資金提供者・市民・行政等の多様なステークホルダーの対話が促進され、持続的に価値を創出しつつけるエコシステム形成をめざす。



- 評価を軸とするエコシステム形成に必要な要素の中で、今年度着手したものと、今後の検討課題は以下のとおり位置づけられる。

## エコシステム形成に向けて必要な要素

	資金需要者	仲介者	資金提供者
ヒト	経営層のリーダーシップ	人材市場の創出	経営層のリーダーシップ
モノ	評価人材の育成		
	評価実践ガイド策定		
	分野別・投資類型別の共通指標や目標の設定		
	価値創造の事例づくり	評価事例づくり	社会的投資の事例づくり
カネ	ナレッジ集約・発信のプラットフォーム創設		
	評価への投資	基盤への投資	投資スキームの開発
	評価コスト低減		
環境	インセンティブ設計		
	認知・理解度向上		
	標準手法の確立・普及		
	推進・普及体制の構築		

2018年度  
着手

今後検討

- 本事業は、「SDGs×評価×金融」のエコシステム形成に向けた取組みの1年目に当たり、主な成果は以下のとおり。

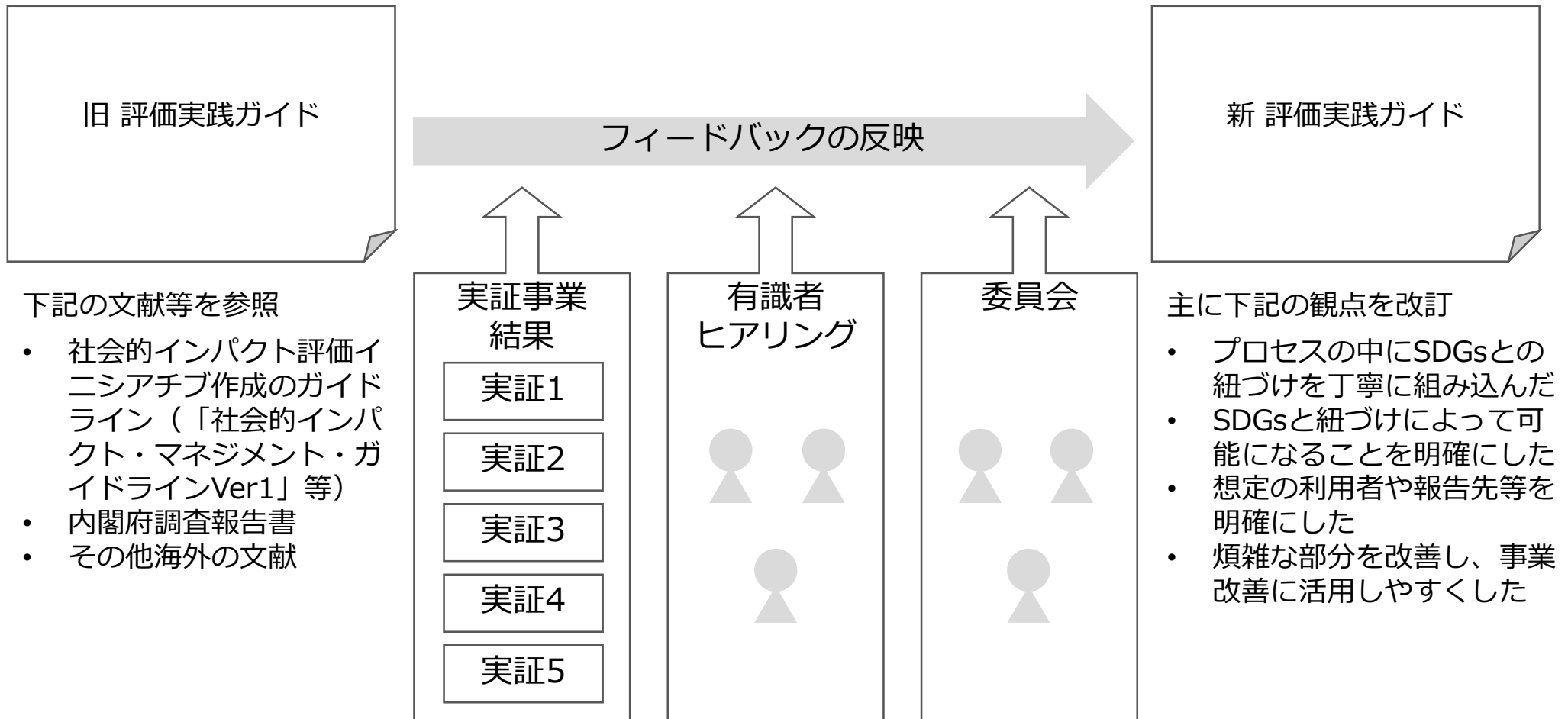


















- 事業開始前に準備した評価実践ガイド（旧版）を各実証事業で利用し、そこからの改善点を反映して評価実践ガイド（新版）を作成した。

2018年12月

2019年3月



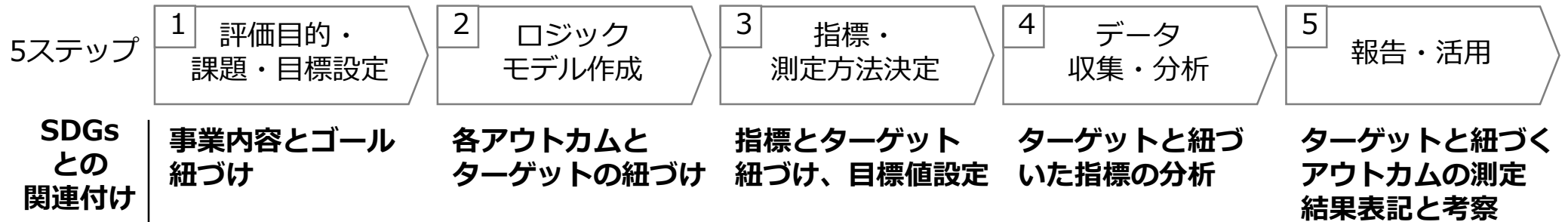
- 5つの評価実証は、Fujisawaサステイナブル・スマートタウン（FSST）の3事業と、その他の県内2事業で実施した。

社名・事業名		事業概要	関連するSDGsターゲット
1	アルケア株式会社	ロコモ予防・改善を希望するあらゆる人（主に高齢者）に、早期の行動変容を促すことで、アンチロコモ市場の開拓と同時に、健康寿命の延伸、サステナブルな高齢社会の実現をめざす	   3.8 3.d      9.5      10.3
2	株式会社 K2 インターナショナルジャパン	若者の家族への面談、セミナー、体験、ピアカウンセリングなどの支援を通じて、若者の家族（特に親）の生活の質向上と社会参加を促すことで、若者自身の自立・就労の促進をめざす	  8.6      10.2
3	Fujisawa SST (株式会社電通、パナソニック株式会社、株式会社学研ココファン)	A コミュニティケアの担い手づくり	   3.8      8.5      11.3
4		B ノンプロケアのサービスづくり	  3.8      11.7
5		C 産官学住の共創の基盤づくり	産官学住による共創的なイノベーションが創出され続けるコミュニティの基盤づくりをめざす ※ロジックモデルを使った評価ではなく、指標セットを作成する ※関連が期待できるターゲット例     8.3      9.1      11.3      12.8

- 評価実践ガイドでは、評価の基本プロセスの5ステップで整理された各ステップのワークシートと、それぞれSDGsとの関連付けを示し、その使い方を掲載している。

評価実践ガイド = 概要説明 + **ワークシート** + ワークシートの使い方

評価の基本プロセスに沿ったワークシートの構成



(例) ワークシート2

インパクト・レポートの作成

- 本事業は、以下の多様な方々に、検討委員、有識者、協力者として参画いただき、「SDGs×評価×金融」を推進する人材ネットワーク形成にもつながった。

※各五十音順、敬称略

検討モデル 検討委員会	綾井大介（株式会社電通 ビジネス・ディベロップメント&アクティベーション局プリンシパル事業室 都市戦略・産業創生部部長）
	今田克司（一般財団法人CSOネットワーク代表理事）
	落合千華（ケイスリー株式会社最高執行責任者）
	志波崇裕（パナソニック株式会社 ビジネスソリューション本部 CRE事業推進部 藤沢SST推進課）
	中山省吾（株式会社学研ココファン執行役員／企画開発部 部長）
	山口健太郎（神奈川県理事（いのち・SDGs担当））
	米原あき（東洋大学 社会学部教授）
有識者	若林賢彦（株式会社横浜銀行 総合企画部 企画グループグループ長）
	蟹江憲史（慶応義塾大学大学院教授）
	鴨崎貴泰（認定特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会 事務局長）
	河口真理子（株式会社大和総研 調査本部 研究主幹）
	工藤七子（一般財団法人社会的投資推進財団 常務理事）
	永田綾（環境省 環境経済課 環境金融推進室 室長補佐）
	西村克俊（株式会社三井住友銀行 成長産業クラスターユニット長）
	源由理子（明治大学 公共政策大学院 ガバナンス研究科長、日本評価学会副会長）
	黄春梅（新生企業投資株式会社 インパクト投資チーム シニアディレクター）
米良はるか（READYFOR株式会社 代表取締役）	
協力者	池田賢志（金融庁 チーフ・サステナブルファイナンス・オフィサー）
	遠藤健太郎（内閣府 地方創生推進事務局 参事官）
	甲木浩太（外務省 国際協力局地球規模課題総括課長）
	川廷昌弘（株式会社博報堂DYホールディングス グループ広報・IR室 CSRグループ 推進担当部長）
	鈴木均（一般財団法人日本民間公益活動連携機構（JANPIA）事務局次長）
	松原稔（りそな銀行アセットマネジメント部責任投資グループグループリーダー）
	水野雅弘（株式会社トゥリー 代表取締役）

- 来年度以降に向けた検討課題、提言（案）は以下のとおり。

	課題	対応策
1 「SDGs×評価」 の進化・普及	<ul style="list-style-type: none"> <li>「評価実践ガイド」の活用促進</li> <li>評価の認知向上</li> <li>評価コストの負担軽減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「評価実践ガイド」の異分野（本年度の未実証分野）での活用と、それに基づく改訂・類型化</li> <li>簡易版やウェブ版ガイド等の作成</li> <li>評価だけではない、事業戦略を包摂的に見るフレームワークへの発展</li> <li>さらなる実証の実施による事例の蓄積・共有・発信（事例集の作成等）</li> <li>セミナー、シンポジウム等の開催</li> </ul>
2 「評価×金融」 の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>事例の形成、蓄積</li> <li>リスクシェアリングの推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資金提供者と協働したガイドの活用と、それに基づく改訂・類型化</li> <li>「評価×金融」の具体的な案件・事例形成</li> <li>リスク許容度の異なる資金を組み合わせた新たな金融スキームの開発・実装</li> </ul>
3 人材育成、 ネットワーク形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業者と資金提供者のギャップを埋める仲介者の発掘・育成</li> <li>評価の伴走を担う人材の発掘・育成</li> <li>必要なスキルの明確化と習得方法の検討</li> <li>各プレイヤーの連携促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修プログラムや詳細計画の策定</li> <li>実施（パイロット研修）フェーズへの移行</li> <li>産官学にまたがる多様なステークホルダー、キープレイヤーが連携する持続的なネットワーク・プラットフォームの形成</li> </ul>